＜先週の説教から＞

『ヘブライ㊺－まっすぐな道を歩くこと』

武田真治牧師

箴言 3：1~8　ヘブライ書 12：12~17

12章に入り、これまで触れて来た旧約聖書の信仰者たちの姿や生き方を踏まえて「おびただしい証人の群れに囲まれている以上、自分に定められている競争を忍耐強く走り抜こうではありませんか」と“信仰生活というマラソン”を走り抜く奨めが為されました。そのために今日の箇所で「だから、萎えた手と弱くなったひざをまっすぐにしなさい」と勧められています。これは決して隠喩(たとえ)として言われているのではなく、実際に走るための器官＝体に気を配りなさいという教えです。私たちが、信仰生活というマラソンを続けようとすると、自分の信念や確信がどこまで持ちこたえられるかと“心の状態”ばかり考えてしまいがちですが、ヘブライ書の著者は、むしろ「手や足」の状態、つまり“体”に気を付けろと。いくら心が強くても身体が弱くなったり、元気がないと内なる“信仰”にまで悪い影響を与えてしまうからと。なるほどと思います。私自身、自分の年齢を感じることが多くなって来ました。イエス様も『心は熱していても、体は弱い』とゲッセマネで弟子達に教えられました。

実はその次の言葉が、少々問題を含んでいる言葉ではないかと思います。それは「また、足の不自由な人が踏み外すことなく、むしろいやされるように、自分の足でまっすぐな道を歩きなさい。」です。この言葉をそのまま受け取りますと、足の不自由な人が途中で歩けなくならないように、その不自由な足のままで、まっすぐな道を選んでとにかく歩いて行きなさい、そうすれば癒される(＝足もよくなって来る)からと教えていることになります。それが神様から与えられる“鍛錬”であるかのように。しかし、この言葉はあまりにも過酷な、愛の無い、自己責任を強いる言葉ではないでしょうか。実は、ここの言葉の翻訳が問題になっているのです。以前の協会訳では「また足の不自由な者が踏みはずすことなく、むしろ癒されるように、あなたがたの足のためにまっすぐな道をつくりなさい」でした。英語訳の多くも「あなたがたの足のために道をまっすぐにしなさい」となっています。足の不自由な人が頑張れと言われているのではなく、その人たちが歩きやすい道に「あなたがた＝信仰の道を先に走っている人達」が造って行くようにと。そうしていくことが、結果的に“自分たちの足のために”もなるのだからという教えではないのでしょうか。信仰の道を一緒に走って行くために、少しでも走りやすい道にしていこうとお互いが考え、配慮していく時、より多くの人達が“走り通すこと”が出来るのだと。私たちが信仰生活を続けて行くことは単に自分のためではなく、後から来る人のために、少しでも道をまっすぐに、平らかにしておこうと考えて生きることの大切さが言われているのだと思います。それが教会らしい“目標”ではないでしょうか？　各自、勝手に走れでは決してないと思います。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【今週の集会】

＊聖書研究・祈祷会　Ⅰ．3月 29 日（水）20：00
　　Ⅱ．3月 30 日（木）10：30
聖　　書：　ハイデルベルク信仰問答
祈祷主題：　受難週早天祈禱会を覚えて
担 当 者：　(水) 北島　(木)
祈りに覚える人：　岡本さん　　岡本さん

【教勢報告】

主日礼拝　　男 25　　女　57　　計 82
祈祷会　Ⅰ．男6　女2　計 8　　Ⅱ．　男2　女10　計12
日曜学校　　幼稚科 8　小中科 11　　計 19

【次週主日礼拝】　　4月　　2日（日）

聖　書：　創世記　２５：１９～３４
　　ヘブライ人への手紙　１２：１４～１７
説　教：　「ヘブライ㊻―俗物だけにはならないで」
　　武田 真治 牧師
讃美歌：　３０１(1)、３２(1)、聖歌隊（＝３０６）、
　　４８１(1と2)、４４０(1～3)、２７

【次週当番表】

司式:保坂長老　奏楽:須田　礼拝:岩佐長老
献金：小草　長村　　受付：西尾　橋本
会堂準備：浅井　阿部　齋藤　山田
看板：保坂　　週報：岩佐　　お花：森本

【次週集会予定】

礼拝前：・求道者会　・聖書輪読会
礼拝後：・長老会　・会堂管理委員会　・4月誕生者祝福
　　・聖歌隊練習

６４－１３

週　報

2022 年度　教会標語

「礼拝に支えられ、共に生きよう！」

２０２３年　　３月　２６日

日本キリスト教団　**上尾合同教会**

牧　師　　**武田　真治**

〒362-0041　上尾市富士見２－３－33
TEL＆FAX　048－771－6549
http://www.ageo-church.org/